

目次

第1編 計画策定の趣旨など

1	これまでの京都市・大学コンソーシアム京都の取組	1
2	計画策定の趣旨	3
3	計画の位置づけ	4
4	計画の推進に向けて	5

第2編 大学・学生を取り巻く状況と課題

1	大学・学生を取り巻く状況	6
2	今後の課題	8

第3編	目標すべきビジョン	11
-----	-----------	----

第4編 施策の推進

1	学生が学ぶ環境の充実	13
2	大学・学生の国際化の促進	17
3	学生の進路・社会進出の支援	22
4	大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化	25
5	学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化	31
6	プロモーション戦略の強化	34

■	資料編	37
---	-----	----

第1編 計画策定の趣旨など

1 これまでの京都市・大学コンソーシアム京都の取組

(1) 「大学のまち・京都21プラン」の策定と大学コンソーシアム京都の設立

キャンパスプラザ京都の設置

昭和50年代後半、京都市は、相次ぐ市外への大学転出の動きの中で、大学振興を市政の重要な柱の一つと位置付け、昭和60(1985)年に大学問題対策委員会を設置。さらに、21世紀に向けた「大学のまち・京都」のビジョンを示し、大学と地域の総合的な発展を図るために、平成5(1993)年に、「大学のまち・京都21プラン」(以下「21プラン」という。)を策定しました。

21プランに基づき、平成6(1994)年に全国で初めての大学間連携組織である「京都・大学センター」が設立され、平成10(1998)年には、産学公連携のもと、我が国で初めての大学コンソーシアムである「財団法人大学コンソーシアム京都」(平成22年に公益財団法人へ移行。以下「大学コンソーシアム京都」という。)が設立されました。また、平成12(2000)年には、大学相互間及び大学と産業界、地域社会などの間の連携及び交流を促進する活動拠点として、京都駅前に「京都市大学のまち交流センター(キャンパスプラザ京都)」を建設するなど、「大学のまち」として他都市に例を見ない先進的な取組を進めました。

平成16(2004)年には、21プランの後継計画として、「大学のまち・わくわく京都推進計画」(計画期間 平成16[2004]年度から平成25[2013]年度まで)を策定。大学・学生、大学コンソーシアム京都、地域・市民、産業界・企業、行政がそれぞれの役割を果たしながら、連携して取り組むべき事業を示し、推進してきました。

(2) 「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の策定・推進

平成21(2009)年、京都市と大学コンソーシアム京都は協働で、「大学のまち・わくわく京都推進計画」を一新し、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」(計画期間 平成21[2009]年度から平成25[2013]年度まで)を策定しました。この計画では「大学のまち」の推進から、学生がいきいきと輝き、京都の大きな力となることを目指し、学生に強く焦点を当て、魅力と個性あふれる「世界に誇る『大学のまち』『学生のまち』」の実現を目指した取組を推進してきました。

計画の最重点ポイントとして、「学びの環境の充実」「大学の国際化」「学生のまち」「産学公地域連携」の4つの柱を立て、54施策(うち19施策が重点施策)を推進しました。「学びの環境の充実」では、京都の大学において学部などの新設やキャンパス・大学施設の整備拡充が進むほか、



キャンパスプラザ京都

市外からの大学の新規進出や、市外に転出した学部の市内回帰の動きが見られる中、京都市では、京都の景観やまちづくりに配慮するなどの良好な大学施設の整備に対しては、都市計画上の規制などの弾力的な運用や京都市の市有地の活用などを行い、大学施設の展開・立地を支援してきました。

また、「大学の国際化」においては、海外での「京都の大学紹介セミナー」の開催や「京都留学サイト」の開設により留学生誘致に取り組むとともに、京都地域活性化につながる海外留学を支援する「海外留学派遣プログラム開発支援事業」などの実施により日本人学生の海外留学を支援する仕組みが整ってきました。「学生のまち」の取組としては、キャンパスプラザ京都に設置した学生の活動拠点「学生 Place +」や学生・地域連携ネットワーク「むすぶネット」など、学生の活動を支援し、地域と結びつける仕組みづくりが進展してきました。「産学公地域連携」では、数多くの産学連携の取組や魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて大学・学生が協働で取り組む「学まちコラボ事業(大学地域連携創造・支援事業)」などの地学連携の取組が展開されてきました。

(3) 大学コンソーシアム京都の取組

大学コンソーシアム京都は、大学、行政のみならず経済団体も含んだコンソーシアムとして、大学間連携による先駆的な取組を推進し、今まで、その事業内容・規模ともに全国の大学コンソーシアムの牽引役を果たしてきました。

具体的には、大学間連携のスケールメリットとコーディネート機能をいかして多彩な科目を提供する単位互換事業、幅広い企業・行政機関・非営利組織の参画により実体験と教育を融合したプログラムを提供するインターンシップ事業、生涯学習事業である「京カレッジ」など、社会的要請の高い教育プログラムの開発と推進を行ってきました。また、未来の京都づくりに向けた政策を創造するための調査・研究などを目的とした「未来の京都創造研究事業」などの都市政策研究推進事業、毎年10月に平安神宮・岡崎公園一帯で開催される「京都学生祭典本祭」に代表される学生交流事業、京都の大学と学びの魅力を高校生や保護者に紹介する「京都の大学『学び』フォーラム」の開催などの高大連携事業、さらには大学教職員向けのフォーラムやセミナー・研修などを行うF D・S D事業、海外の大学コンソーシアムとの協定締結による教職員・学生の双方向の交流などの国際連携事業など、多角的な事業を推進しています。

大学コンソーシアム京都では、本計画と同じく平成26(2014)年度から平成30(2018)年度までを期間とする「第4ステージプラン」を策定し、その中で今後5年間に果たす役割を次のように示しています。

- ① 京都地域における大学間連携事業の推進
- ② 加盟大学・短期大学の教育の質向上の追及支援
- ③ 「大学都市」京都、地域の発展と活性化への貢献

このような役割を果たすために、今後も学生の「学びと成長」に質的な深みや多様性をもたらすことを使いとして、質の向上を基本とした事業の選択と集中を図り、学びのための多様なコンテンツや資源を擁する京都の特色をいかした各事業を推進することとしています。

2 計画策定の趣旨

京都が「大学のまち」「学生のまち」として先進的な取組を展開し、魅力と個性を高めてきた一方で、今後、18歳人口の更なる減少や大学進学率の伸びの鈍化による受験生及び大学入学者の減少、また、大学や企業を取り巻くグローバル競争の拡大など、大学・学生を取り巻く状況は更に大きく、激しく変化することが予想されます。

世界中から多様な人財が集い、羽ばたく拠点となる「大学のまち」「学生のまち」として京都が更に発展していくためには、京都市としても、大学コンソーシアム京都との連携を一層強化し、産業界や地域と一体となって、大学・学生の集積を核とした大胆な政策を展開することが求められています。

本計画「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 2014-2018」は、社会状況の変化や国の動向、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の成果を踏まえつつ、今後5年間で取り組むべき施策をとりまとめ、京都市と大学コンソーシアム京都が協働で策定したものです。

※本計画においては、「人は宝である」という考え方に基づき、固有名詞などを除いて「人材」ではなく「人財」と表記しています。

市民の皆様、特に学生を中心とした若者にも本計画に親しみを持っていただけるよう、市民の皆様から募集した愛称案に基づき、本計画の愛称を「大学・まち・学生 むすぶプラン」としました。

3 計画の位置づけ

都市理念(都市の理想像)

世界文化自由都市宣言

<市会の賛同を得て昭和53(1978)年10月15日宣言>

都市は、理想を必要とする。その理想が世界の現状の正しい認識と自己の伝統の深い省察の上に立ち、市民がその実現に努力するならば、その都市は世界史に大きな役割を果たすであろう。われわれは、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。

世界文化自由都市とは、全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市をいうのである。

京都は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが、今日においては、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市でなければならない。われわれは、京都を世界文化交流の中心にそえるべきである。

もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい。われわれ市民は、ここに高い理想に向かって進み出ることを静かに決意して、これを誓うものである。

市政の基本方針

京都市基本構想(グランドビジョン)

21世紀の京都のまちづくりの方針を理念的に示す長期構想

<平成13(2001)～37(2025)年>

基本計画

京都市基本計画

基本構想の具体化のために全市的観点から取り組む主要な政策を示す計画

各区基本計画

基本構想に基づく各区の個性をいかした魅力ある地域づくりの指針となる計画

第1期

<平成13(2001)～22(2010)年>

第1期

<平成13(2001)～22(2010)年>

第2期

はばたけ未来へ！京プラン
<平成23(2011)～32(2020)年度>

第2期

<平成23(2011)～32(2020)年度>

分野別計画

大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 2014-2018

<平成26(2014)～30(2018)年度>

4 計画の推進に向けて

(1) 計画推進組織

本計画の実施主体である京都市、大学コンソーシアム京都の他、大学、学生、経済界、NPO、市民などで構成する「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」において、計画の進行管理を行います。

本計画の推進に当たっては、各事業単位で毎年度実施する京都市事務事業評価の結果などを踏まえ、計画の進捗状況を点検するとともに、外部の視点を取り入れ、P D C A (Plan-Do-Check-Action)のサイクルを構築し、毎年チェックを行います。また、中間時点において総括を行い、新規事業の検討や成果があがらない取組の改善などを行います。

(2) 計画推進期間

本計画は、近年の大学・学生を取り巻く急激かつ大きな状況変化のスピードを勘案し、柔軟な対応を図っていくため、平成26(2014)年度を初年度に、平成30(2018)年度を目標とした5年間の計画とします。